

24 飾り板の岩井橋 (大正12年)

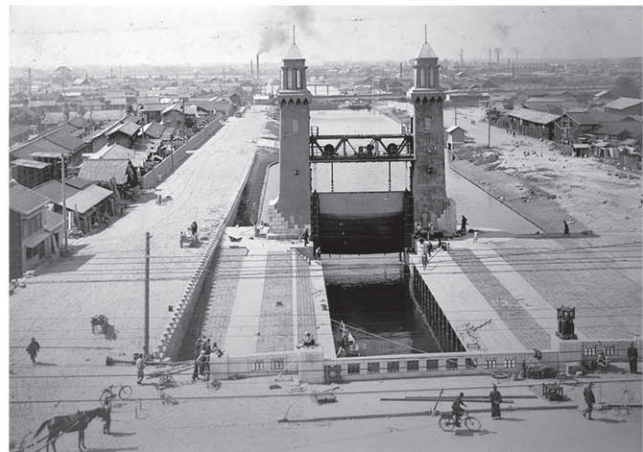
岩井橋は大正12年に架設され、アーチ部分に飾り板が付けられているが、戦前の飾り板が残るのは日本でここだけと言われている。土木学会推奨土木遺産に指定されている。

25 明治の擬宝珠が残る日置橋

親柱には二つの年号が刻まれている。明治14年と昭和13年だ。擬宝珠は古色蒼然とし錆や傷も多く読みにくい人名が一杯刻まれている。明治14年の改築にあたり、資金を寄付した人たちの名である。昭和の改築にあたり、貴重な遺産として再利用され今に伝えられている。

26 竣工間近な松重閘門 (昭和5年頃)

水位が違う堀川と中川運河を船が行き来する時、水位調整のために造られたのが松重閘門である。昭和5年に完成し、たくさんの船が通航したが、トラック輸送の普及により昭和51年に使用が中止された。都市景観重要建築物等・市有形文化財・土木学会推奨土木遺産に指定されている。(名古屋市市政資料館蔵)

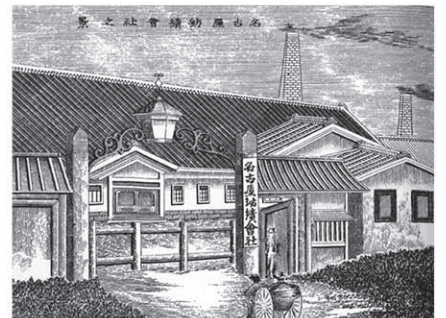
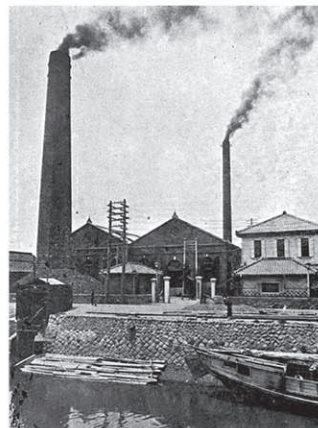


27 名古屋電燈水主町発電所 (明治43年頃)

明治22年に名古屋電燈(株)が石炭火力で電気の供給を始めた。明治34年に堀川岸の水主町に新鋭の発電所を建設し、一時期はここ1か所から名古屋や熱田へ電気を送っていた。今は、中部電力(株)水主町変電所になっている。

28 名古屋紡績

明治18年に名古屋城下の商人などにより、古渡橋東の地に設立された。名古屋最初の洋式機械紡績工場で、その後名古屋で繊維産業が発達するきっかけになった。跡地には伊勢山中学校などが建っている。(尾張名所図絵)



29 尾張紡績

明治21年に名古屋近郊の商人などにより、瓶屋橋の東の地に設立された。煉瓦造りの立派な工場だったが、明治24年の濃尾大震災で屋根などが崩壊し、たくさんの犠牲者を出した。(濃尾大震災写真帖)

